

毎日新聞 コラム「三重～る経済」
掲載日 2022年7月27日(水)
タイトル 「場」づくりと地域活性化
執筆者 百五総合研究所 中村 哲史

人口減少や少子高齢化など、さまざまな課題を抱える地域の活性化の手段として「場づくり」が注目されている。そもそも「場」とは、人々の「出会い」や「交流」といった意味を持つ言葉で、「場づくり」とは、意図的にそれらを促し、より良いコミュニティのシヨンを促す取り組みと解釈されている。三重県内でも、「場づくり」を通じて、地域に「関わる人」をつくり、「関わる人」を増やそうとする事例が確認できる。例えば、志摩市では、今年3月に、民間事業者が「the satellite」(トーストというシエアオイスをオーブンした。目的となり、地域を訪れる活動の拠点として活用)をもちろんで、さらに魅力が生まれること、好循環に期待したい。

事業者、住民などが集える場所となっている。地域内外の人々が交わる「場」として機能し、地域活性化の「きっかけ」をうみ出すことが、今年6月から、町が中心となり、「起業」「創業」に意欲を持つ人々と、そのサポートを行う人々が交わり、議論される機会づくりが進められている。新しいビジネスや地域活動に取り組み足掛かりとなる「場」を町内に設けることで、町を訪れ、関心を持つ人を増やすことが目指されている。共通することには、「人との交流に重きを置いている点が挙げられる。魅力ある人が集まる「場」が地域を訪れる